

【YAWATA 150】

-ふるさとは八幡小学校です-

令和5年10月2日(月)

八幡小学校の150周年にちなむお話を、八幡学区の歴史につながるお話をいろいろとしています。今回は中川運河について(その1)

八幡小より歴史が新しい中川運河

さて、八幡小学校のある中川区はなぜ「中川区」というのでしょうか？
答えは、区内に中川運河があるからです。

八幡小の学区の一番西側にある中川運河ですが、「運河」というからには、人工的に作られたものとなります。そして、その歴史は八幡小よりも、かなり新しく、「仮義校」誕生から60年ほど後に運河はできました。

明治6年(1873年)……仮義校、誕生
大正10年(1921年)……名古屋市に編入、八幡尋常高等学校に改名
大正15年(1921年)……中川運河建設計画発表
昭和7年(1932年)……中川運河、運用開始

中川運河は、名古屋港から、名古屋駅近くの旧国鉄笹島貨物駅を結ぶために掘られた運河です。かつては「中川(笈瀬川)」と呼ばれる川が流れていたことから中川運河と名付けられました。中川は、名古屋城をつくる時には、石垣に使う石の輸送が行われた川だったそうです。

大正時代、名古屋港が国際貿易港となるために、名古屋駅まで運ばれてきた貨物を名古屋港にすばやく運ぶ運河が必要である……と考えられるようになりました。すでに、堀川が使われていましたが、もっと大量に輸送するために、名古屋市都市計画事業として中川運河の建設が決定しました。

1926年(大正15年)に計画が発表となり、1930年(昭和5年)から工事が開始されました。最大3メートル近くなる、名古屋港との水位変化(潮の満ち引き)の影響を避けるため、中川口閘門を作りました。また、堀川が、中川運河より水位が高いため、松重閘門を設けて、2つの川を連結しました。

中川運河周辺の町名のヒミツ

中川運河にはたくさんの橋がかかっています。その中の「長良橋～いろは橋」の間の土地では、運河の東西で町の名前にある法則があります。

実は、運河の東側(八幡小のある側)は「**○川町**」と町名が名付けられ、運河の西側には「**○船町**」と名付けられているのです。たとえば、八熊橋の東側には「富川町」があり、西側には「富船町」があります。

つまり、富川町のお向かいが富船町、その横の清川町のお向かいが清船町となっているのです。八幡小のお隣の玉川小学校は、玉川町内にあります。八幡小と同じく、運河の東側にあります。もしも、運河の西側に小学校があったら、きっと「玉船小学校」という名前になっていたものと思われる。